

- 問1 1221年に、朝廷の権力を取り戻すために鎌倉幕府を倒そうと挙兵した人物は誰？
- 問2 源頼朝の死後、将軍を補佐して幕府の実権を握った北条氏の役職を何という？
- 問3 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問4 後鳥羽上皇が鎌倉幕府の打倒を目指して挙兵し、敗北した事件を何という？
- 問5 鎌倉幕府が、地方の軍事や警察、徴税を行うために設置した役職は守護と何か？
- 問6 浄土真宗を開き、阿弥陀仏の力を信じる教えを説いた僧は誰？
- 問7 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
- 問8 鎌倉幕府の将軍と主従関係を結び、御恩として所領を安堵された武士のことを何という？
- 問9 鎌倉時代に、承久の乱で朝廷側と戦い、勝利を収めた一族を何という？
- 問10 鎌倉幕府において、将軍が御家人に本領を安堵したり新恩を給与したりすることと、御家人が軍役などを果たすことの結びつきを何という？
- 問11 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？
- 問12 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問13 浄土真宗において、武士以外に強く支持された、当時の生産活動を担う人々を何という？
- 問14 承久の乱を起こし、鎌倉幕府を倒そうと試みた上皇は誰？
- 問15 鎌倉時代に時宗を開き、踊り念仏で教えを広めた人物は誰？
- 問16 鎌倉時代に広まった新しい仏教の一つである時宗を開き、念仏を唱えながら踊るという布教方法をとった僧侶は誰？
- 問17 浄土宗の教えが急激に広まったことを警戒した旧仏教勢力との対立により、法然が讃岐へ流された出来事を何という？
- 問18 鎌倉幕府が京都の監視や西国の統治を目的として設置した機関を何という？
- 問19 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問20 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？
- 問21 鎌倉幕府において、将軍が御家人の所領を保護・保証することを何という？
- 問22 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、倒幕を試みました。しかし、北条政子の演説により結束を強めた幕府軍の反撃にあい、上皇側は敗北しました。
問2	答え 執権	執権は、はじめは將軍の補佐役として置かれていましたが、北条時政が初代となって以降、北条氏が世襲するようになりました。執権政治のもとでは、將軍は形式的な存在となり、北条氏が実質的な幕府の最高指導者として全国を政治を統括しました。
問3	答え 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問4	答え 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇が幕府の倒幕を狙って挙兵した事件を承久の乱と呼びます。北条政子の演説によって御家人たちが結集し、幕府軍は朝廷軍を圧倒しました。この乱の結果、幕府は朝廷の力を抑え込むことに成功し、天皇の廃位や配流を行う権限まで持つようになりました。
問5	答え 地頭	守護は各国の軍事指揮や治安維持を行い、地頭は荘園や公領の管理、年貢の徴収を行いました。これにより、幕府は朝廷の権限が強い地域にも介入できるようになりました。地頭の中には、横暴な振る舞いをして農民や荘園領主とトラブルを起こす者も多く、幕府の権力基盤としての側面と、社会問題の原因という側面を持っていました。
問6	答え 親鸞	親鸞は、自らの修行ではなく、阿弥陀仏の救いを純粹に信じることを強調しました。彼は妻帯（結婚）を許可するなど、当時の常識を打ち破る革新的な行動をとり、民衆の生活に入り込むような布教を行いました。これが「浄土真宗」として大成し、多くの信徒を惹きつけました。
問7	答え 鎌倉時代	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を湛えた文学が発展しました。鴨長明の『方丈記』のように、世の移り変わりや自然の厳しさを冷静に見つめる作品が数多く書かれました。
問8	答え 御家人	御家人は、將軍から領地の所有権を認められる「御恩」を受ける代わりに、京都や鎌倉の警備、合戦時の軍役といった「奉公」の義務を負いました。將軍と御家人の結びつきは「御恩と奉公」という主従関係で成り立っており、これが鎌倉幕府を支える強力なシステムでした。
問9	答え 北条氏	承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進撃しました。北条政子の演説で御家人を鼓舞し、勝利を収めたことで、全国的な支配体制が確固たるものになりました。
問10	答え 御恩と奉公	將軍が武士（御家人）の土地の支配を保障することや、新しい土地を与えることを「御恩」といいます。対して、武士は京都や鎌倉の警備をしたり、戦いの際に軍役を務めたりする「奉公」を行いました。この相互の契約関係が幕府の統治の基盤となりました。
問11	答え 地頭	1185年、頼朝は朝廷から各地への「地頭」の設置を認めさせました。地頭は、荘園や公領において年貢の取り立てや、土地の管理・警察的な役割を担いました。これにより、幕府の権力が全国各地に及ぶようになり、武士が実質的な地方支配の主役となりました。
問12	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問13	答え 農民	親鸞の教えは、難しい經典を必要としないため、読み書きが苦手な農民にも広く浸透しました。当時の厳しい生活環境の中で、平等に救われるという教えは、人々の大きな支えとなりました。これにより、各地で門徒と呼ばれる信者の集団が形成され、大きな勢力となりました。
問14	答え 後鳥羽上皇	1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。
問15	答え 一遍	一遍は、踊りながら念仏を唱える「踊念仏」を行い、全国を旅して信仰を広めました。この教えは時宗と呼ばれ、形式にこだわらず、念仏を唱えることで誰でも極楽浄土へ行けると説きました。一遍が全国各地で念仏札を配ったことも、民衆の間で信仰が広まった大きな要因となりました。
問16	答え 一遍	一遍は時宗の開祖であり、念仏を唱えることが救済につながると説きました。特に「踊り念仏」というユニークな布教活動を通じ、全国を回って信者を獲得しました。特定の教理を学ぶことよりも、ひたすら念仏を唱えるという平易な教えが特徴です。
問17	答え 承元の法難	1207年、法然の門弟が起こしたトラブルをきっかけに、旧仏教勢力は朝廷に働きかけました。その結果、法然は承元の法難によって讃岐（現在の香川県）へ流罪となり、多くの弟子も処分されました。これは、新しい教えと古い既得権益側の間の対立が深刻化した事件でした。
問18	答え 地方行政機関	1221年に六波羅探題が置かれ、そこには北条氏の一族が就任しました。単なる軍事施設ではなく、朝廷との交渉、京都の治安維持、西国の御家人の統率といった行政・司法の役割を担いました。
問19	答え 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしつじ）とも呼びます。
問20	答え 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問21	答え 所領安堵	所領安堵とは、御家人が持つ土地の支配権を將軍が保証する仕組みです。御家人は、將軍からこの御恩を受ける代わりに、戦場での戦いや京都の警備といった軍役を果たす義務がありました。この「御恩と奉公」の精神が、幕府の強力な支配体制を支える土台となりました。
問22	答え 方丈記	『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。